26

プリントアウトした請求票は、所蔵部署階のカウンターにお持ちください

2011年01月06日 11：44：26

入館証番号：

＜請求票＞
Call Slip

302.2
5027
1938

資料名：支那と支那人と日本

巻次　：

著者名：杉山平助 // 著
出版者：改造社　頁数　：432p 図
大きさ：20cm　出版年：1938.5

所蔵館　：中央
所蔵部署　：1階資料お渡し・返却カウンター
配置場所　：1/66B 中)B1書庫B
資料ＩＤ　：5000069086

一 社 人 自 東 新 ↓ 一 社 人 自 東 新	力	事
	請求	報告

MB１ ﾏｲｸﾛ B1 ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ 原紙 縮刷
MB２ ﾏｲｸﾛ B2 洋 中 朝

行 1F B1 B2
多 児 青 1F B1 B2

切り取り

2011年01月06日 11：44：26

入館証番号：

Call Slip

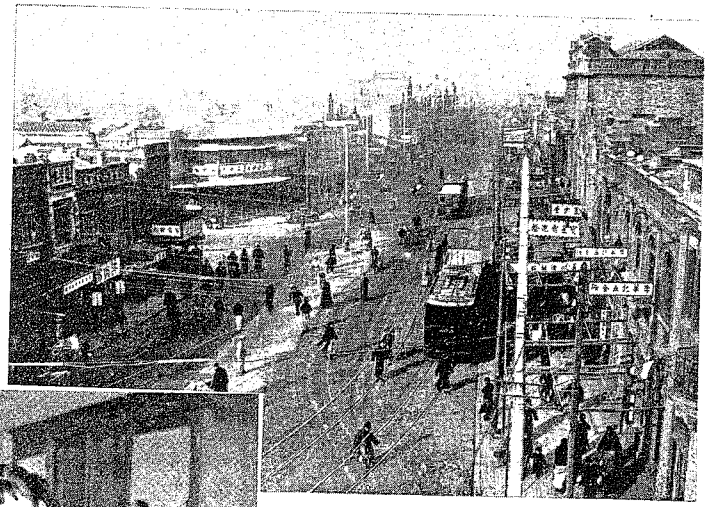
＜請求票＞(控)

書名
資料名：支那と支那人と日本
巻次　：
著者名：杉山平助 // 著
出版者：改造社
出版年：1938.5
大きさ：20cm
頁数　：432p 図版5枚

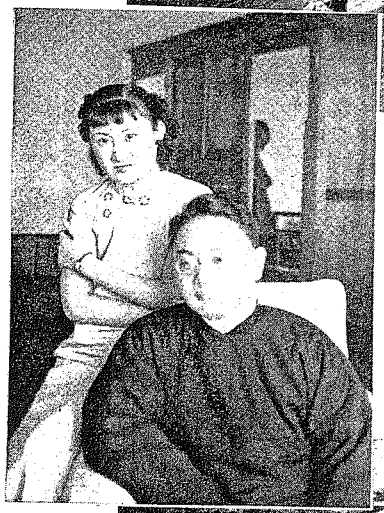
所蔵館　：中央
所蔵部署　：1階資料お渡し・返却カウンター
配置場所　：1/66B 中)B1書庫B
資料ＩＤ　：5000069086

請求記号
302.2
5027
1938

写真(4頁)
目次 1～5
27～40.
376～379

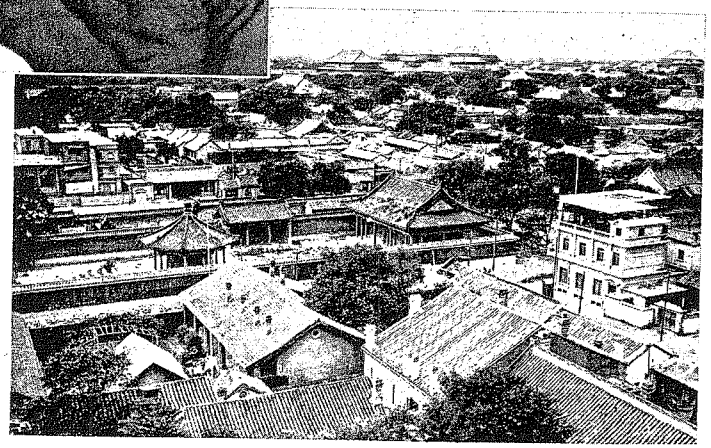


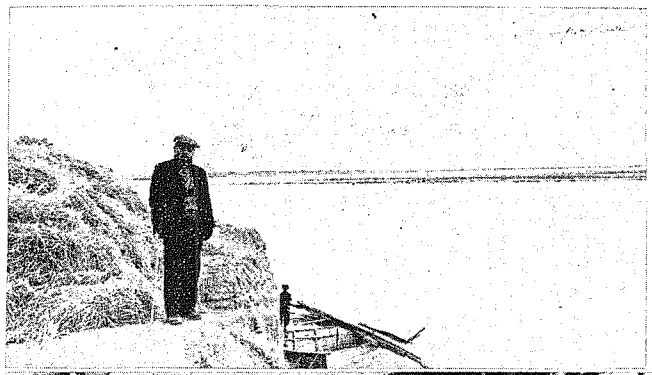
天津市街



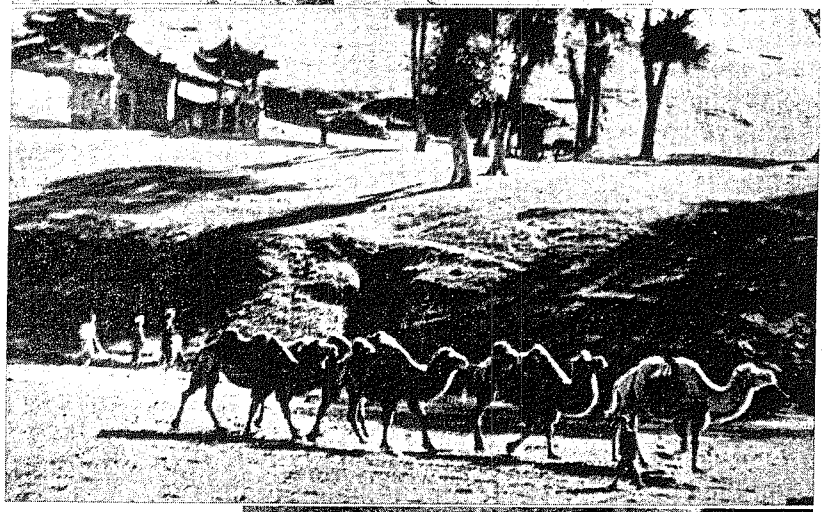
或る姑娘と著者

北京ホテルのルーフより眺めた北京市街





包頭、黄河上流に立つ著者



包頭郊外

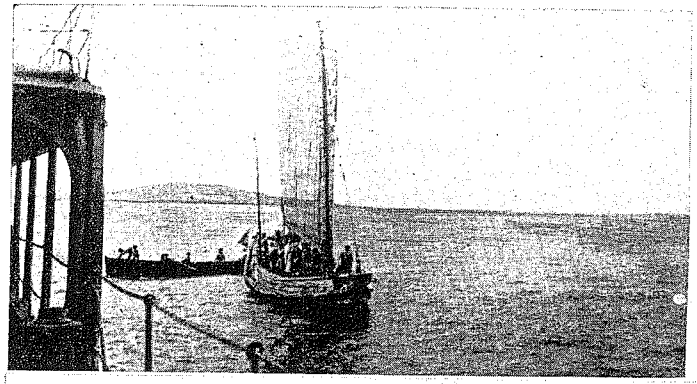
明の十三陵

← 著者の近附遠綏

大同、石佛寺に於ける著者

雲南の石佛

↑停車時間の漫歩



南京、莫愁湖畔に立つ著者 ↓

揚子江を下る

新生活運動の本據なる南京勵志社

目次

歸來感あり

戰線から歸つて……三

歸來感あり……一一

1　現下に於ける對內的の問題……一一

2　現下に於ける對外的の問題……一四

3　インテリゲンチヤの問題……一七

支那人を論ず……二一

1　彼等を現實に直視せよ……二一

2　沒落し果てたる舊家の子……二四

3　遂に救ひ難き自惚れ根性……一七
4　彼等の誇る文化的優越とは……二〇
5　民族的な精神的動脈硬化……二四
6　半端な理想主義を拋棄せよ……二七

大陸的新日本人を論ず……四一

支那人と結婚するな……六七
（支那人の家庭生活について）
1　個人の場合……六九
2　民族的立場から……一〇七

危機における日本のインテリゲンチヤを分析す……一二五
1　インテリの血液と性格……一二五
2　インテリゲンチヤの概念……一三三

3　現代日本のインテリゲンチヤの地盤……一三七
4　現代インテリゲンチヤの思想と性格……一三五

ダンヌンツィオと愛國文學者……一三三

北支・蒙古・中支

北支行　その一……一七一
東京——大連……一七三

北支行　その二……一九九
大連——天津……一九九
天津……二一
防共——自治……二九

蒙古行……三一

包頭まで……三五一
北京より……三五九
北支より上海——南京へ……三三一
南京……三四七

通信・斷想

天津通信……三七三
天津……三七三
物資、支那氣質……三七六
日本女性……三七九
事變と日本女性……三八三
支那の女……三八八

北京通信……三九三
支那より歸つて來た男……四〇九
支那の女性……四一七
南と北……四一八
支那服と流行……四二〇
利と形式の國……四二三

斷想

熱海にて……四二五
民族的差別……四二六
高慢な知識階級……四二八
知識階級を「叱る」……四二九
概念的親善論……四三一

日本の思想的知識人にして、論語や老子やその他の漢籍の感化を蒙らず、これに畏敬の念をいだかないものはあるまい。そして、かゝる偉大な古典を生み出した民族の後裔としての支那人に我々は一種の無意識的自卑感を捨て切り得てゐないことを、ハツキリ認めねばならない。

貴族の後裔といへば、それがどんな腐り切つた馬鹿者でも、一應はこれに注意をむけて、何か偉さうなものを嗅ぎ出さうとする本能的傾向を、我々は持つものだ。日本のインテリゲンチヤの支那人に對する買ひかぶりの中には、かういふ種類の氣分が相當に根強くひそんでゐる。

たしかに支那人は、或る時代には高度の文化に到達した地球上稀に見る偉大な民族であつた。これを否定することは出來ない。

支那へ行つてみると、我々は彼等の人相のいゝのに驚かされる。洋車夫などの中にすら、まるで佛像のやうな圓滿な相をしたものがある。田舍の町を歩いてゐても、何の教養もなささうな娘にして、實に内面的氣品の盛り上つた容貌をしてゐるものに出會つて、眼を見はらされることがある。これこそ、遠くして深い傳統を持つ民族の明白な證券だ。エスキモーやホツテントツトの中には、かういふ現象は絶對に見られるものではあるまい。

何と云つても、彼等は、家柄の高い舊家の後裔たることに、間ちがひはないのである。

しかもこの舊家は、散々に沒落した舊家なのである。有史以來、國を失ふこと兩三度、そのたびに體面も誇りも、泥にまみれ、散々に汚され、踏みにぢられた苦々しい恥かしい記憶を、いつぱい背負ひこんでゐるところの子孫なのである。

この歴史的事實が、今日の彼等の性格を決定する樞軸的要素をなしてゐることを、見落してはならない。

かくて、彼等は、性格のどこかに、高貴なものを宿しながら、一面には、ネヂケて、ヒガンで、陰性で、被虐的で、二筋縄や三筋縄ではいかない厄介なシロモノになつてしまつたのだ。

しかし、それは單にそれだけのものである。何にも恐るゝところも、複雜なことも、むつかしいことも少しもありはしないのだ。

大局において、彼等は老廢して行く民族にすぎない。我々の畏敬する古代支那人と、今の支那人は、似ても似つかないものなのである。

3　遂に救ひ難き自惚れ根性

高貴の家柄から沒落したものゝ共通的な性格の一つは、その如何ともしがたい現實から游離し

た自惚れと自尊心である。

支那人もまたそのごとく、彼等の自尊心の強烈なることは、實に驚歎するより外はない。今度は、日本軍が大いに武威を輝かして、彼等を叩いたから、彼等も今度こそは覺醒して、日本を尊敬するに至つたであらう、などと考へてゐたら、途方もないベラボーな間ちがひだ。

彼等は、あれだけ散々に叩きのめされた今日でも、心の奥底では頑として、自分たちは日本などより比較にならん優秀なものだと、心得切つてゐるのである。そして阿媽から侍僕の末に至るまで、その表面的恭順さにもかゝはらず、内心では日本人を輕蔑し切つてゐるのだ。

もちろん、この自惚れの由來するところは、遠くして且つ久しい。自ら中華と號して、外國をすべて夷狄と見る傳統が、驚くべき隅々にまで行きわたつてゐる。そして、それに何等の客觀的根據もないことは、すこしも彼等には苦にはならないらしい。

それは一種の信仰のやうなものであり、これを說得することは不可能である。こゝに支那人がつひに現實に眼ざめて、時代に適應することが出來ず、世界の落伍者となつて行く最も重要な原因がひそんでゐる。

支那人が、精神的には、征服する事の出來ない民族だといふ說は、すでに早くから認識されて

ゐた。支那人の性格は Unconquerable だとは、西洋人の間にも久しくいはれてゐたさうである。それはまたゴムのやうだともいはれた。壓力を加へると凹むが、壓力が退くとともに、直にまたもとの通りに膨れ上るといふ意味だ。

今度の日本軍に對する大敗などでも、彼等は我々が思つてゐるよりは、ずうつと平氣なのである。何だか日本といふ國の兵隊がやつて來て、支那の軍隊を散々やつゝけて、いたるところ日の丸の旗を立てて威張つてゐるやうだが、これも一場の夢にすぎまい。金や遼や元の侵入にせよ、その通りではなかつたか。同じやうに、日本人の威張るのも長くとも百年はつゞくまい。その間だけ、首をちゞめて、すこしばかり辛抱してゐれば、また明日は明日の風が吹くのさ、といふやうな、實に不貞くさつた料簡で、ふんぞり返つてゐるのである。

かういふ處世觀とも云ふべきものは、支那人にとつてすでに本能的なものとなつてゐる。日本人は、國の滅びることなんかには馴れてをらんが、支那人はそんなことには馴れ切つてゐるのだ。

我々が彼等を相手にするには、そこいらの料簡を、よくよく看破してから、方策を立てなければならない。

たとへば北支新政權の委員長に、王克敏といふ人がある。私は、彼がどんな人物かはすこしも

知らぬ。たゞ彼の美しい娘に、蔣介石の息子が惚れて、結婚を申込んだのを、ハネつけたことがあり、また國民政府からいぢめられてゐた、敏腕な財政家だつた、といふ程度以外のことは、何にも知らない。

しかしながら、もしもこの王克敏といふ人が、どこかで蔣介石と連絡をとり、密使を交換してゐて、おもむろに時の至るのを待つてゐるのだといふ事實が、突然と暴露されるやうなことがあつたと假定しても、私はすこしも仰天しないつもりである。

それくらゐのことに驚いたり、憤慨したりするくらゐなら、むしろ支那人なんかと、最初からかゝはりあはないのがいゝのである。誰かも云ふ通り、彼等の生活はまるで蛸足だ。眼に見えないところでは、八方に手をのばしてゐるのである。

日本人は、それを知つてゐながら、知らない風をして、經濟的、或は軍事的急處を目がけて、彼等の手も足も出ないやうに、ピシリピシリ手をうつて行くのでなければ、久しきに亙つて彼等を御して行くことなど、到底思ひもよるまい。

4　彼等の誇る文化的優越とは

陰謀術策及び宣傳の天才としての支那人については、よく知れ渡つてゐる。

正直で、氣短かで、思つてゐることを直ぐ顏に出してしまふやうな陽性な日本人が、無限に氣が長くて、口で云ふことゝ腹の中とはいつも違つてゐる、陰性な支那人に對し、陰謀なんかで爭つて勝てるわけはないのである。だから、支那人の眼には、日本人なぞ、まるで子供のやうにしか映つてない。彼等が自ら賢しとして己惚れてゐる優越感は、多少その邊からも來てゐるのである。

しかし陰謀はつひに陰謀だ。頽廢した智的遊戯にすぎない。

いつたい陰謀術數なんぞの巧妙な人間に、本當の意味で頭腦のいゝものがあるわけがない。

古代支那人のあの優秀な頭腦に拘らず、現代支那人の頭腦は恐ろしく惡くなつてゐる。

砲兵學校の生徒にしろ、彈道の計算の滿足に出來るものがすくないといふことを、私は某將官から聞いた。

大學教授や大學生の素質の劣等なることは、支那で教鞭をとつてゐる瀧川博士から、私は詳しく聞いてゐる。(瀧川氏もそれについて先日かいてゐた)

彼等は何を見ても、これを遊戯化し、最も低い意味において功利化してしまふ。

おそらく支那人には、日本人のいふ氣合ひといふものが、絶對にわからないにちがひない。彼

等は古來の各種の武術さへ、輕業のやうに遊戯化して、眞劍といふ意識を完全に喪失してしまつてゐる。しかも、彼等は、この腐り切つたものを誇りとし、これを自分たちの「文化」だとさへ錯覺してゐるのだ！何といふ哀れな文化であらう！

古來、支那を征服したものは、必ず數十年にして、支那文化に中毒して、虚脱化されるのを常とした。卽ち、武力において勝ちながら、文化において負けたのである。

現代支那人も、日本に對して、これと同じやうな夢をみてゐる。しかし、曾て彼等が文化の力によつて、これを虚脱化せしめた遼や元は、もと〳〵文化レヴェルにおいて、彼等より低いものであつた。現代日本はそれに反して、支那とは比較にならない、高い文化水準に立つてゐるといふことを、彼等は忘れてゐる。

支那人は、口を開けば、日本には固有の文化がなく、すべては模倣だと云つて輕蔑し、自分たちの祖先傳來の文化を鼻にかけるのが常だ。しかし、彼等の御自慢の文化なるものは、すでに何千年も前の人の殘した糟粕にすぎない。それは現代の彼等とは、何等のかゝはりもなく、彼等自身は、何一つ誇るべきものを生み出してゐないといふことを、反省し得ないのだ。

いつたい支那人は、文を尙び武を卑しめる民族であるから、戰爭で負けることは、それほどの

痛手とは思はないであらう。むしろ文において劣るのを、甚しい恥辱とする。そして、如何に戰爭に負けたといへど、文化においては我にまさるものはあるまいと、實にエタイの知れない夜郎自大の增上慢に陷つてゐる。さうして、醫學にせよ、理學にせよ、文學にせよ、音樂にせよ、繪畫にせよ、現代支那人は、現代日本人の足許にも及ばない、低いところにウロついてゐるといふことに氣のつかない、情ないタヘケものなのである。

彼等のうちには、戰爭においてさへ、日本に勝てると思ひこんでゐる恐ろしい世間知らずが多かつた。蔣介石は、さすがに現實を知つてゐるから、支那は弱國なりと云つてゐる。しかしその彼でさへ、文化においても、支那は日本には及ばないとは、到底云ひ切れなかつたであらう。それはこれ以上、支那人のプライドを傷つけるものはあるまいと思はれるほどの、痛々しい眞實だからである。

現代の支那人は、武力において、日本に及ばないごとく、頭腦の力においても、決して日本人に拮抗出來るものではない。彼等のお得意の陰謀なんか、鼻先であしらつて、相手にしないのが、いちばん痛烈な應酬なのだ。

ところがたま〳〵日本人の無思慮なものが、敵ひもしない癖に、陰謀をしかけて行つたりする

が、これは寢業を得意とする相手に、寢業をしかけて行く樣なものである。したりとばかり、捲き込まれるのは當然な話だ。例へば、今度の韓復榘に對する扱ひ方の如きにも、多少その氣味あひはなかつたであらうか？　日本人も、こゝらあたりでフツツリ眼を醒ますべき時ではないか。

5　民族的な精神的動脈硬化

以上、私は、大いに支那人をコキおろしたが、決していたづらに快を貪らんがためではない。日本人に、その中でも、特に支那人を買ひ被りすぎてゐる日本のインテリゲンチヤに、支那人の實體を知らしめ、彼等の生ぬるいセンチメンタリズムを、一刻も早く叩きこはしたい一念に外ならない。

支那人を買ひかぶりすぎてゐるのは、決して平和主義的インテリや、左翼思想家の一群のみではないやうだ。最も鼻息の荒さうな軍人や政治家の中にすら、さういふ人々が相當にゐることを私は知つてゐる。

私自身といへど、支那人の底恐ろしさについては、知らないわけではない。何人にも劣らず、知りすぎてゐるつもりである。

そこらあたりの、髭の生えた先生方が、支那人に日本を理解させてやるとか、德をもつて支那人を同化してやるとか、大きなことを云つて出かけて行くのを見ると、噴飯を禁じ得ない。同化するかはりに、同化させられるがオチであらう。

個人々々の性格の力から云へば、私は、日本人より、むしろ支那人の方へ軍配をあげるかも知れない。

自己の力もはからずに、他人を德化しようなどといふ生意氣な考へをおこす馬鹿者については、莊子の僞篇のうちにも散々愚弄されてゐるやうだ。支那人は、さういふ點では、實に頭腦が鋭いのである。

パール・バックなども、日本に對抗するには、武器をもつてするより、その民衆の强靱な性格の力をもつて、無形の長期抵抗を試みよと支那人に教へてゐる。

更に、それに加ふるに、彼等には執拗無類な細菌的繁殖力と、地球上、如何なる地帶にも生存し得ざることのない、ドエライ適應力を具へてゐる。

それを思ひ、且つ我々日本人の短氣な、激し易くして飽きつぽい性格を考へると、この日本が今後、あの支那をどうのかうのしようなどといふのは、ほとんど絶望的な夢想ではなからうか、

といふやうな悲觀的な考へすら湧いて來るのである。

しかし私は、悲觀論者として支那へ渡つたが、歸つて來る時は、ナニやつてやれないことがあるものか、といふ强氣をいだいてゐた。

その點で、私は、いたるところ多くの人々と論爭した。近年の支那人の、急激な民族意識の覺醒とか、戰鬪の際にしめした彼等の勇敢さとか、逆境に陷つて顏色を變へない彼等の根性の据り方だとかを並べたて、人々は、支那人恐るゝに足らず、といふ私の說を駁擊した。そのくらゐのことは、私にしても百も二百も承知の上である。しかし、私は、それと同時に、彼等の致命的な弱點をもまた看破してゐるのだ

たとへば、彼等の適應力の强いといふことは、前にも述べたが、その適應力は、下等動物のそれであつて、斷じて高等動物のそれではない。本質的な意味では、支那人ぐらゐ、頑固で妥協性を欠いた、適應性に乏しいものは珍らしい。彼等は、決して新しいものを理解しようとせず、これに興味さへ持たない。

我々は、最初それを彼等の性格の强さだと錯覺してゐたが、事實はそれは民族的な動脈硬化であり、老年の狡猾さと、頑固さとの入りまじつたものに過ぎないことがわかつて來た。その强さ

のやうに見えるのは、實は彼等をして新時代に適應して行くことを妨げる生命の癌なのである。彼等は、若々しい子供らしさなどといふものをまるで欠いてゐる。支那では、子供たちさへオトナのやうに見える。これこそ民族としての第一義的致命傷でなければならない。

人々は、新生活運動が、僅かの間に一世を風靡したことを云々するが、それは彼等が恐ろしい形式主義者だからだ。赤化思想の浸潤を云々するが、それは彼等が恐ろしい實利屋だからだ。決して本質的な意味の適應性の發露とは認めがたい。そのことは支那へ行つて、支那人の個々の言動を、ぢいつと凝視してゐれば、直にこつちのカンに、ピーンとひゞいて來なければならない筈のものなのである。

6　半端な理想主義を拋棄せよ

それ故に、我々が支那人を扱ふのには、戰術上の原則に從つて、彼等の長短を究めつくし、その强き部分を避けて、弱いところを押へて行くより外はない。

陰謀術數では、日本人は絕對に支那人の敵ではないのだから、そんなことにかゝはり合はない方がいゝといふことは、前にも述べた。

陰性な性格の頑強さでは、支那人は無比の力を具へてゐるのだから、その點にも觸れないでおく方がいゝ。

たとへ黄河の水の澄む日が來ようとも、支那人が心の底から、日本人に屈伏するなどといふことは、絶對にあり得ないといふことを、一日も早く看取することが大切だ。

それは決して、日本人に對してばかりではない。英國だらうが、米國だらうが、ソヴエートだらうが、彼等は決して心の底から征服されるものではないのだ。

しかし、支那人のさうした性格の頑固さには、積極的な能動性が附隨せず、從つてたいした危險もないのだから、知らん顔して放つておけばいゝのである。

ところが氣の狹い日本人には、それが出來ない。お前たちは、肚の底で我々を輕蔑してゐるやうだが、それは間ちがつてゐるから、考へ直したらどうだなどと、實にツマラナイお説教をしたがる厄介な癖を持つてゐる。

或る英國人で、祖父の時代から三代續いて支那で商賣を營んでゐるものが、かく語つた。「日本ほど支那に近接してゐて、日本人ほど支那的性格を理解し得ないものはめづらしい。支那人といふものは、他人と協同の仕事なんぞ絶對に出來る人種でないといふことを、我々は長い經驗に

よつて、知らされ拔いてゐるから、決してそんな計畫を立てたことがない。しかるに日本人は、いつまでもお人好しな夢を見つゞけてゐるのであらう。」

これは英國人らしい、傾聽すべき言葉である。

日本人は、英國人のやうに徹底的な現實家にもなれず、中途半端な生煮え理想主義を捨てきれないために、支那など相手にする時は、却ていつもいちばん馬鹿にされる。

支那人など、人間と思ふな、豚だと思へ、といへば如何にも亂暴非人道に聞えるが、英國人や米國人は、事實其通りに考へ、その通りに實行してゐる。そして日本人よりはるかに多くの尊敬を支那人からあつめてゐるのだ。現在米國でキイキイ聲をあげてゐる平和主義婦人の支那同情者など、夢にも支那人を豚以上に考へてゐやしない。私は、その通りにやれといふのではない。ただ、さういふ事實を認識してかゝれ、といふのである。

要するに、支那人は、飯を喰はせてやつて、後は放つておけばいいのである。それがまた、支那人の大多數者の最もよろこぶところなのだ。

どんなみじめな環境におかれようと、生活をエンジョイする能力においては、支那人は日本人などの足下にも寄れないほどの老熟した手腕を具へてゐる。莊子のいはゆる淤泥に嬉遊するもの

だ。これに對して白いシーツが衞生的だとか、ラヂオ體操がどうだとか、おためごかしの親切なんか、ウルサがられるだけの話である。

支那人は、殘忍性も獰猛だし、復讐心も强烈だが、實にまた親切な性質をも持つてゐる。

しかし日本人の親切と、支那人の親切とでは、その出て來る感情の基調が全くちがふのだから、ヘタにかゝはりあふことは、却て後日の仇や恨みになることも多いであらう。

以上、私はいさゝか、餘りむき出しに語りすぎたやうだ。しかし表面的には、百千の外交辭令も、文化工作も、宗教的運動も、結構なことだし、またやらざるを得ない事は知つてゐる。たゞそんなものゝ効果を、過大評價して、自らそれに醉つてしまつては困るといふのである。

要するに、何より大切なのは、ブツキラ棒な事務家的常識と、實力の正確な計算を以て、ピシリ〳〵急所を抑へて行くことだ。

それより以上に大切なのは、日本人の氣魄である。從來の阿呆らしい買ひ被りを一擲して、支那人なんぞ、頭からのんでかゝる意氣である。それがなければ、すべての思慮も空しい。

大陸的新日本人を論ず

私に一つの空想がある。不可能な空想ではないが、至難な空想なのである。全支那、全滿洲の山々に、大植林をすることがそれだ。

赤禿げ坊主の山は、朝鮮ばかりの特產かと思つてゐたら、支那はもつとひどい。飛行機で、飛びまはつてみると、山々は、まるで馬糞を積み重ねたやうにしか見えない。それはまた、皺だらけの象の脊中みたいで、地球が皮膚病にかゝつてゐるやうな感じでもある。

その上おまけに、至るところいたつて水に乏しい。

水が豐富で美しく、いかなる山脈も鬱蒼として、森林地帶をなしてゐる日本に生れたものには、何と云つても支那は住みづらい、情ない土地である。

日本人を支那へ移住させるには、まづ山へ樹を植ゑてかゝらねばならないと、私は、いかにも文學者らしい、迂遠な机上の空想に耽つたものである。

いたるところの山に樹が生えれば、水の質もいくらかづゝ違つて來るだらうし、季候や濕度な

物資、支那氣質

そのため、一時は物資が非常に缺乏したさうで、物價が高いばかりでなく、物がない。晒木綿三尺買ひたくつても、買へない有樣だといふことは、私が內地にゐて聞いて來たところであるが、今では、それも徐々に回復して來て、それほどのことはない。しかし、總體的に見ると、何もかも乏しく、一流ホテルのメニューの貧弱なことは、東京や大阪の第三流ホテルにも及ばない程度である。

トイレットへ入つて見ると、トイレット・ペーパーが、きはめて粗末なザラ紙で出來てゐる。使用してみると、きはめて柔くて、むしろ東京あたりの、上等なトイレット・ペーパーよりも、使ひ心地がいゝ。日本では紙が足らぬ足らぬと云ひながら、まだ〳〵下らんところに無駄をやつてるナーと感じた。

イギリス租界に、キッスリンといふ有名な菓子屋がある。銀座のフジアイスや、不二家みたいに、菓子も賣れば、飯も食はせるといふ營業だが、ファニチュアなどは立派なもので、ごくクラシックな品のいゝバンドもついてゐる。東京にも、これくらゐの重さのある店は一軒もない

と殘念に思つたが、そこで菓子を買ふと、包裝紙が、白いザラ紙を使つてゐる。しかし、日本でも、資生堂やコロンバンあたりの包裝紙が、白いザラ紙になることも、近いうちに來ないとは云はれないといふことも、念頭においておかねばなるまい。

とにかく、何から何まで不自由である。

私は、現にフランス租界のイムペリアルホテルにゐるが、日本租界との電話は通じない。一度人と連絡をつけそこなつたら、あと幾日したら會へるものか分らない。相手の姿は、永久に群集の中に消えてしまふこともある。東京なら、半日ですむ用事が、三日もかゝる。

內地から發送した筈の荷物が、幾日たつても着かない。郵便などは、次第に機能が回復して來たとは云ひながら、まだ〳〵、不着や、一週間や二週間の遲着は、當然のことと考へなければならない。

そこで、私などは、こつちへ來てから、却て氣がノンビリしてしまつた。萬事成り行き次第に委せるより外はないと、悠々と落ち着き拂つてしまつた。たゞ、多少氣にかゝるのは、內地へ發送する原稿の遲着といふこと、ぐらゐのものである。

支那へ來て、急げば必ず損をする、と、或る人は敎へてくれたが、現在のやうな戰時狀態では

なほ更のことである。

塘沽から天津まで、普通は汽車で二時間のところを、私は、九時間を費して、フランスの汽艇で白河を溯つて來た。それも、夕方の七時から翌曉の四時頃までの眞夜中のことである。私は毛皮の外套にくるまつて、ランチのともの方に寢ころんで、うたゝ寢をしたり、或は時々起き上つて、兩岸の大洪水の有樣を、陰暗な夜の光りの中で觀察したりした。

この洪水の光景を見たゞけでも、日本人はキモを潰してしまふであらう。

これが日本なら、半鐘が鳴るやら、炊き出しの自動車が狂人のやうに走りまはるやら、貴婦人の慰問團體が組織されるやら、連日の新聞は全紙をその記事で埋めるであらう。

ところが、天津市内では、どこにそんな洪水があるのか、と云はんばかりの有樣である。

しかも、その天津自身が、いつ水の上に浮き上るかも知れないと云ふので、街角のいたるところには、土囊が積み上げられ、イザといふ時の防水用意をやつてゐるのである。

この洪水は、二ケ月も前の雨でひきおこされたものである。そして、いつになつて減水するのか見當もつかない。支那では、洪水までが、きはめてスローモーションでやつて來て、きはめてスローモーションで減退して行くのである。しかも、その規模の大なることは、日本では想像も

つかない。

飛行機で、津浦線上を飛んで來た人の話によると、六百メートルぐらゐ上空に上つても、洪水の水平線の見えないところが、あるさうである。實に大きな支那である。この支那と、感情のリズムを合すことの出來る人物が、日本では容易にあらはれ難いのである。

日本女性

私は、うすりい丸で神戸から大連までやつて來た。門司を出た次の日は、この航路として、半年に一度あるかないかと云はれる大きな時化であつた。私は終日船室にとぢこもつて、ベッドに寢たまゝ本を讀んでゐた。

午後三時頃、扉にノックが聞えて、赤十字看護婦の腕章をまいた紺の制服の娘さんが一人、入つて來た。船酔ひしてゐるのであらう、まつ青な顏をしてゐる。それでも、しつかりと禮儀正しく立つてゐて、私のサインがほしいのだと云つた。

私はベッドから半分身を起して、苦笑ひしながら云つた。

「明日の朝にしてくれませんか。僕は船に弱蟲で、ものを書く氣力なんかありませんよ。それに